

編集・発行 神奈川大学資格教育課程協議会
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎045-481-5661(代) 内2062

尽力することをお約束する
とともに、教職課程に関わ
る教職員の皆さま一人ひと
りのご健康を心から祈念し
て、私からのあいさつとい
たします。

2016年度各課程活動報告

教職課程

2016年度教職課程では齊藤ゆか先生をお迎えして、新たな体制で課程運営に臨んだ。齊藤先生は社会教育課程を主に、教職課程の運営にも積極的に関わっており、今後学校ボランティアにも関わる予定である。

現在日本の教員養成課程は、生涯学び続ける力、同僚や地域等とつながる力・チームで対応する力など、教師として人として成長し続ける力の基礎を培うことが求められている。来年度には全国すべての教職課程で「再課程認定申請」が行われる。総合的な学習や特別支援教育に関する新しい科目の設置も予定されている。これまで以上に、「教職に関する科目」担当者と「教科に関する科目」担当者の一層の協働により（そもそも大きくリ化される）、大学全体として主体的に一貫した教員養成を行っていくねばならない。

そのような中、本学教職課程ではこれまでに行ってきた活動をとおして、学生が教師としてのモデルを得、「教える仕事」の魅力に気づく機会をできるだけ盛り込むよう努力をしている。

カリキュラム内容における特色

本学ならではの特色ある

科目内容を幾つか挙げておきたい。

「教職論」（2年次）：澤田特任教授を中心に担当者が協力して作成した共通のテキストを使用している。実務家教員の担当により、学生の教職へのあこがれを育み、より具体的な展望が描けるようにする。

「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」：3年次の後学期および4年次前学期の科目であり、3年次後学期に半期科目として設置していることは本学の特色である。教育実習に出る前に、教育委員会、卒業生教員等外部講師による講演を含め、事前指導に力を入れている。今年は「人権教育」「教育と性」「ICT活用教育」「生徒指導」について、最前線の内容を講演により学修した。

「教職実践演習（中学・高校）」（4年次）：教育実習後に自らの課題を振り返り、総合的に課題追究し教員としての資質を高めていくことが目指される。教科に関わる教員との協力のもと、複数教員がそれぞれミニゼミを構成し、課題を探究し学修成果の発表会を行う。発表の共有を通して多様な課題に触れることとなる（横浜キャンパス）。またパネルディスカッションを企画し、先輩教員3名を招いていることも特色である。先輩教員（若手から中堅まで）のこれま

でのキャリアを知るとともに、学生からの質問に率直に答えていただくことで、学生は具体的な教師像を描くことができ、たとえ教職につかない場合であつてもこれからの人生を考える意義ある機会となる。採用試験不合格の学生が「自信を無くし今後悩んでいるが、改めて夢に向かつて来年もチャレンジしよう」と気持ちを決めたという事後レポートなどがあり、身近な先輩教員と学生との接点の重要性を改めて強く感じた。

教育研究交流会および学校ボランティア報告会

卒業生教員の会である神大ネットワークとの協力のもと、来年度から教員となる学生と卒業生教員とお世話になっているボランティア先学校関係者等を招いて、3月4日に教育研究交流会を行う予定である。今年は本学卒業生（教職課程を履修）で社会福祉士である荒木夏彦氏に講演をお願いした。氏は小学校巡回相談を担当しており、学校と外部専門機関がどのように協働していくことが必要なのかを考える機会としたい。

あわせて、学校ボランティアを行う学生が今年度の活動の学びを発表し、ボランティア受け入れ校との連携を密なものにしていく予定である。

教員免許状更新講習

今年度から「教育の最新事情」領域は、必修・選

択必修に分けられた。ただし本学では受講者は必修・選択必修を両方受講する2日間実施とした。従来通り、各目の教職振り返りと講演をもとにグループディスカッションを行う形式で実施した。教職経験を言葉にして振り返り異校種の教員が学び合う機会として良好な評価を得ている。

教員採用試験対策

澤田特任教授らのもと、3、4年次に継続的に対策講座を展開している。自治体の採用人数は減少に転じ始め、採用試験は全般的に厳しくなる方向に向かい始めたようである。そのような中、1面の表に示す通り、45名（現役合格15名）の合格を把握している。今後臨時的任用教員や非常勤講師として教壇に立つ学生は少なくない。来年度の活躍を期待していきたい。

古屋 喜美代



活発な発表会の様子
「教職実践演習
（中学・高校）」

社会教育課程

社会教育は、子どもやおとな向けの学校外教育（学習・文化・スポーツ・ボランティア活動等）を指している。本学の「社会教育課程」では、社会教育主事になるためのカリキュラムが設定されている。この社会教育主事は、都道府県や市町村の教育委員会の事務局で社会教育に関する仕事を行う「専門的教育職員」である。そこで、学生の皆さんが「社会教育課程」を履修する意義を改めて考えてみたい。

第一は、公務員に必須の〈地域・社会の課題解決力〉を身につけること。日本では、現在、多くの課題（健康・医療・福祉、防災・減災、若者の就業）を抱えている。こうした課題解決には、「現状を分析する力」「企画立案する力」「学習・スポーツ・文化等の活動を支援する力」「環境整備とネットワーク構築力」が必要とされる。こうした力を養っ

日本語教員養成課程

2016年度は、5名の4年生が日本語教員養成課程を修了予定である。本課程では、「日本語教育実習」を集大成として4年次後学期に配置している。神奈川大学は多文化共生の進む横浜に位置していることにより、個性豊かな日

本語教育現場で実習を実施することが可能となる。2016年度は4名が飛鳥

ていく。

第二に、世代を越えて（貢献する力）を育むこと。社会教育課程の科目（特に「社会教育実習」「社会教育演習」）では、世代を越えた地域の人々・子ども・おとな・高齢者と一緒に実地体験を行う。積極的に地域のフィールドワークに参加・参画することで（コミュニケーション力）を高め、さまざまな活動の場面で（企画力・運営力）や（社会貢献する力）を育むことができる。

第三に、自らの（仕事力）を創り出していくこと。住民（子ども・高齢者）の支援、施設の運営、まちづくりなど、様々なボランティア活動を通じて、まち全体を見通す（仕事力）を創り出すことができる。この学びは、学習者の未来を描くことに寄与するだろう。今後、これら趣旨に添い、能動的な学びの展開ができるカリキュラム改善に努めたい。

齊藤 ゆか

学芸員課程

神奈川大学の学芸員課程は、1985年に始まって今年で32年目になる。その間、学芸員課程修了者は400名前後に達している。その中で、博物館に就職している人たちが数多くおり、その修了生のなかで、本学博物館学芸員課程の講義を受け持っている人もいる。32年間という時間を経て、毎年新しい修了生を輩出するだけでなく、その修了生が自分の後輩を指導するなどさまざまな成果をもたらしている。

さらに、日本常民文化研究所を中心として本学の大学博物館あるいは展示室を新たに設置する計画もある。日本常民文化研究所には、木造船や絵馬、小布細工、仕事着雛型、打刃物など多くのコレクションがある。その博物館あるいは展示室が完成すれば、そこを利用した博物館学芸員の教育が一層充実したものとなる。

学院（横浜市中区）で1週間の教壇実習を中心とした教育実習を、1名が川崎市ふれあい館（川崎市川崎区）で週1回、計10回の日本語学習支援を行った。飛鳥学院では、アジアからの留学生を対象とした国内日本語学校における典型的な授業を実習として経験させていただいた。前学期から授業計画を立案し授業リハーサルを繰り返し学内で行うなど、実習

本学学芸員課程の一つの特徴は、3年次に博物館実習Ⅰ、4年次に博物館実習Ⅱを履修することである。博物館実習Ⅰでは、博物館の実習見学を主に行う。博物館の現場を実際に見て、聞いて理解しておくことが大事だと考えている。そして、4年次で博物館実習Ⅱを履修する。これが、学芸員資格を取得する課程における最終的な科目であり、前半が博物館見学実習、後半が館務実習である。館務実習に行く前に十分見学実習を行うことで、自分が実際に博物館で実習する際の訓練の意味をもっている。

今年度は、横浜キャンパス14名、平塚キャンパス17名の合計31名の学生と院生が館務実習を履修した。どの学生も館務実習では努力し、実習先からよい評価を得ることが出来た。実習先の方々のご指導に感謝するとともに、今年度の実習修了生全員の今後の活躍に期待したい。

日本語教員養成課程修了予定者の進路は、1名が大学院進学（日本語教育）、4名は一般企業への就職である。企業内および生活地域での国際化が進む中、日本語教員養成課程で学んだ知識やスキルをそれぞれが持ち場で活かすことが望まれる。実習校の先生方の細やかな指導に心から感謝申し上げたい。

富谷 玲子

教職課程 教育実習記録より

2016年度、教職課程では160名が教育実習を行いました。「教育実習記録」に記載された実習生の振り返りや気づき、指導教諭からの厳しくも温かい指導・助言のなかからいくつかをご紹介します。

限られた時間の中での準備は本当に大変で、十分に準備し、完璧に流れを頭に入れ、余裕をもって授業をするということはできませんでした。しかし、生徒とアイコンタクトをとりながら授業をすることが目標だったので、毎回意識して臨みました。こちらが生徒の表情を読み取るうとして目を合わせると、自信があり「私を指して」と訴える顔や「わからない」という

★

教育実習は、私に改めて教師という仕事について考えを深めさせる良い体験と

博物館実習を終えて

歴史民俗資料科学研究科歴史民俗資料学専攻博士後期課程2年

王 蕾



私は神奈川の歴史と文化をテーマとした神奈川県立歴史博物館で館務実習を行った。7日間の実習で、民俗・考古・美術資料における保存管理や取扱いを中心に、来館者のアンケート調査、ワークシートの作成などを実習させていただいた。また、学校連携事業情報システムの管理、ボランティア制度なども学んだ。さらに、収蔵品を記録するための写真撮影方法、展覧会の宣伝するポスター作り、展覧会を多く知ら

せる広報活動なども実習した。学芸員が担う多様な役割を理解するための貴重な経験を得られた。

今回の館務実習で分かったことは二つある。学芸員の仕事は主に「もの」に対してさまざまな活動を行うが、教育、普及を果すには常に来館者の心理や関心などに関する心掛けが重要である。展示やワークシoppだけでなく、来館者との直接なコミュニケーションも不可欠である。また、学芸員はもちろ

なりました。普段生徒の目からは見えない先生方の動きや仕事、学校運営や学級運営の裏にある働きなど貴重な場面を体験させて頂きました。反省点として、朝や帰りのホームルームでの限られた時間を単なる情報伝達の場としないことや、掃除などに加わりつつもあくまで生徒主体で行わせるといった指導に至らず指摘を受けました。ただ教える・伝えるのではなく、一つ一つに「指導」という柱をもつて生徒たちと接するようになければならないという教師としての基礎・基本の重要さを痛感することができました。

★

教育実習を通して、生徒に対してどれだけ本気で向

き合うことができるかが大切だと感じました。そしてできることが当たり前と思いうのではなく、できない・分からない生徒にどれだけ自信と希望を持たせられるか、大変深く考えることができました。生徒は相手の気持ちを敏感にとらえることができます。先生が本気でなくて生徒も向き合おうとしてくれません。本当に信頼される先生は見えていないところで努力されている方だと思いました。必要とされ周りに求められる人間になるには日々成長、現状に満足することなく様々な経験と柔軟な思考力・判断力・人との関わりを大切にできるかだと思います。この学びを将来に活かせるように頑張ります。

教育実習記録 指導助言欄より

横浜市立中学校

神奈川県立高校

実習の間、いろいろ悩み苦しみながらよく頑張りました。この間の経験をもとに、ただ「教師を目指す」だけでなく「どのような教師を目指すのかをじっくり考えてみると良いと思います。他の仕事も同じですが、教師になるということは自分の人生を子どもたちに捧げるということです。自分の人生を捧げる価値のある、そんな教師になってほしいと思います。

教師の仕事は、対象が生身の人間です。こちらの思惑通りに事が運ばないもどかしさがあります。ましてやこうしたら良いというマニュアルもありませんから、自分の持っているすべてを駆使して対応していかなければなりません。それゆえ、これ程やりがいのある恵まれた職業はないと思います。時には相手に大きな影響を与えることもあり得るので責任は重く常に自分を磨いておかなければなりません。

「今の私」にできること

～日本語教員養成課程を終えて～

外国語学部国際文化交流学科4年

佐藤 陽菜

んそれぞれ専門分野を持っているが、自分の専門でない分野を知ること、興味を示すことが大切である。学芸員の仕事は多様さを持つため、幅広い知識は臨機応変の助力になると思う。

「開発途上国の人々の支援がしたい。」と考えるようになったのは、高校2年生のときにオーストラリアへ留学したことがきっかけだった。私にとってはそれが初めての海外だったのだが、その雰囲気や人々の解放感がとても心地よく、そして分け隔てなく「受け入れる」姿勢に感銘を受けた。対等な扱いを受けたことが嬉しく、それがきっかけで日本もそういう国にしたいと思い、調べてたどり着いたのが日本語教育だった。

日本語教員養成課程の集大成である、日本語教育実習は、飛鳥学院という日本語学校で1週間、私を含め4人が2人ずつクラスに分かれて、計2回授業を行った。日本語学校という現場に初めて足を踏み入れ、私の視野が一気に広がったのを感じている。実習で得たものは多くあるが、大学生である「今の私」だからこそのことがあると気づけたのは大きな収穫である。実習が「楽しかった!」と心の底から思えた

のは、ご指導いただいた先生方と、意見を交換し合いながら励まし合ってきた仲間のおかげである。

私は4月から東北大学で大学院生になる。大学院では、農業分野における外国人労働者の人権を守る取り組みや日本語教育が、具体的にどのように行われているのかを実際に現場に足を運び、調査していきたい。日本が前向きに「受け入れる国」に一步でも早く近づけるよう、「今の私」にできることに挑戦し続けたい。



2016年度、学芸員課程では31名が館務実習を行いました。

2016年度、学芸員課程では31名が館務実習を行いました。

2016年度、学芸員課程では5名が日本語教育実習を行いました。

2016年度、日本語教員養成課程では5名が日本語教育実習を行いました。

神奈川大学 心理・教育研究論集

発行 神奈川大学教職課程研究室

第 40 号

論文

- ・次期学習指導要領の方向性とその吟味 安彦 忠彦 梅本 大介
- ・高校文法教科書はなぜ9年で消えたのか 久保野雅史
- ・学習者の素朴な疑問に答えるための基礎知識 久保野雅史
- ・教育経営における責任・統制構造に関する試論 三浦 智子

研究ノート

- ・カリキュラム・マネジメントにおける教育目標 鈴木そよ子
- ・教育実習指導をふりかえる 関口 昌秀

- ・教科書の図が招いた誤った認識について 日野 晶也
- ・「高校「生物」における受精現象の事例」 日野 晶也
- ・子どもの発達的困難とキャリア教育 古屋喜美代
- ・通常学級在籍生徒を対象とする特別支援教育の方法 倉本 憲一
- ・「困り感をもった生徒」への支援の研究 小林 道夫
- ・高大接続改革に向けたインストラクショナルデザインを用いた授業設計 鈴木 英夫
- ・中学校理科におけるアクティブラーニングの実践 村上市 治夫
- ・「キャリア教育」の背景・経緯について～発達段階における指導の概観等～ 平田 治夫

指導法・実践報告

- ・中学校での健康システム管理論の教育実践 渡部かなえ
- ・総合的な学習の時間の考察と試み 敏志 里志
- ・高等学校「確率」の「排反と独立」の指導についての考察 榎本 秀雄
- ・中学校理科におけるアクティブラーニングの実践 牧嶋 秀雄
- ・中学校理科における演習実験の活用 長谷川 寛
- ・湘南ひらつかキャンパスにおける「介護等体験指導」の歩み 関口 昌秀

第 41 号

論文

- ・道徳の理論 (1) - 道徳と身体 - 大西 勝也
- ・思春期の友人関係はその後の成長にどう影響するか? - 教育相談への示唆 - 横溝 亮一
- ・教職課程における学校ボランティアの効用について 鈴木 英夫
- ・神奈川大学学生の「ボランティア通信」を手掛かりに 鈴木 英夫
- ・道徳教育の新しい方向性とライフスキル教育の理念・実践 - 「特別の教科 道徳」と「生きる力」の視点 - 田中奈津子
- ・継承語教育が教育実践者にもたらす資産性に関する一考察 - 欧米在住ブラジル人女性移住者の場合 - 坪野寿美子
- ・アスペルガー症候群の共感性欠如に関する試論 - 認知的障害への理解と支援の視点から - 原 英樹
- ・障害を抱える児童生徒に対するインクルーシブ的教育支援のあり方と課題 原 英樹

研究ノート

- ・教職実践演習 (中学・高校) における「哲学」 大西 勝也
- ・教育実習指導に向けて 教育実習生を対象としたストレス研究からの考察 萩野佳代子
- ・教育制度と「統一試験」 鈴木そよ子
- ・総合的な学習の時間と総合学習 関口 昌秀
- ・学校保健からみた子どもの健康格差 渡部かなえ
- ・計算機を用いた確率論的教育支援法について 加藤 憲一
- ・教職課程受講生における「潜在的ボランティア」のニーズの検討 齊藤 ゆか
- ・「社会生活基本調査」及び「社会意識に関する世論調査」の分析を手がかりに 早織 博史
- ・K大学における教育実習生の体育授業への課題意識に関する研究 その1 望月 英樹
- ・総合的な学習の時間を持つ教育効果と課題 望月 英樹
- ・学習障害の児童生徒の問題把握と教育的支援について 原 英樹

共同研究

- ・「学校ボランティア13年」の歩み 入江 直子 齋藤 元 大場 裕二

指導法・実践報告

- ・学生・教員が共に成長する場を求めて～「学校ボランティア」の展開に関する報告～ 本間 利夫
- ・剰余類と代数系の指導について 岸谷 正彦
- ・工業科におけるPICを用いたやさしい制御教材の開発 後藤 修久
- ・理科教育における「観察」について 吉田 久明
- ・道徳教育の指導原理とその方法～道徳教育の要となる道徳科の授業をいかに充実させるか～ 根岸 久
- ・アクティブ・ラーニングの一方策～討論のある問題解決的な学習による子どもが社会参加する総合的な学習の時間～ 長谷川 寛
- ・「介護等体験」の指導法について～学生の体験日誌の紹介～ 関山 広朗

後輩へのメッセージ
～教員採用試験合格者より～

川崎市 中学校 社会 合格

「出会いと学び」

法学部法律学科4年 中島 渚

学び続け成長すること。
教師という仕事の魅力であり大切な姿勢だと思っています。

教師になるという夢を叶えられたのは、多くの人と出会い、出会った全ての人から学び、助けていただいたからです。

まず、学校ボランティアや教育実習で生徒から多くのことを学びました。

何より、生徒の笑顔や「わかった!」という言葉は絶対に教師になろうという気持ちと教師という仕事の楽しさを教えてくれました。実習では生徒と過ごせる時間を大切にし、生徒から学び、元気をもらってきて欲しいと思います。

大学では、先生方や友人から多くのことを学びまし

群馬県 中学校 英語 合格

「出会いと成長」

外国語学部英語英文学科4年 原田亜矢子

私は大学4年間で自分を成長させてくれたのは、「人」との出会いだと感じました。

ゼミの仲間たちと切磋琢磨しながら教員としての力を身に付けてきました。部活動では百人以上の先輩や

兵庫県 高校 保健体育 合格

「学生生活を大切に」

人間科学部人間科学科4年 河上 誠貴

私が皆さんに伝えたいことは2つあります。

まず1つは、学生の間にたくさんのことを経験するということです。学生の間はたくさん失敗をしてもよい時期だと思います。しかし、学校の現場に立つとなると、授業も生徒との関わりも失敗することができません。だからこそ学生である今のうちにたくさんこのことを経験してください。そして、たくさん失敗してください。失敗を次の自分の課題↓改善↓成長へとつなげていき、成功へと変えていくってください。

次に、自分自身をよく知ることです。自分がどのような人間であるのかというのは、頭の中で分かっているつもりでも、いざ自分の言葉にして話す



した。日々自分の周りの人に感謝の気持ちを持ちながら充実した学生生活を送ることは、教員としてだけではなく、人として大切だと考えます。

また、学校ボランティアでは、アシスタントティーチャーとして現場の先生方や児童・生徒と触れ合うことが出来ました。学生の間に実際の現場に行くことはとても貴重な経験でした。机上の勉強だけでは決して

神奈川県 中学校 理科 合格

「大学生活を通して」

理学部生物科学科4年 柴倉 愛理

私は「理科の教員になりたい」という目標を持って神奈川大学に入学しました。この大学生活4年間を通して、自分の成長につながったと思うことが2つあります。

1つ目は学校ボランティアや教育実習です。実際に生徒と触れ合うことで、生徒との接し方や臨機応変に対応すること、授業以外での生徒とのコミュニケーションをどうとっていくのかについて学ぶことができた

「大学生活はあつという間に過ぎてしまうからあなたが本当に教師になりたいと思うのなら、勉強以外の経験を多く積みなさい。」これは私が高校生の時の担任の先生から言われた言葉でした。私は専門性以外の経験を多く持った教員にな

神奈川県 中学校 数学 合格
「二つの経験が夢への第一歩」

理学部数理・物理学科4年 橋本 香織

アでは教壇に立たれている先生の授業を見て、生徒が理解できる授業を考える等様々な立場から「より良い授業作り」が何か学ぶことができました。また、一つ一つの経験で知り合った仲間と切磋琢磨できたことで今の自分がいると感じました。4月からはこれらの経験を生かしていきたいと思っています。

後輩のみなさん、大学生活は様々な経験ができると思います。自分から行動して得た経験は後から振り返るととても充実し価値のあるものばかりです。また、そのときに知り合った仲間

できました。

自分は教員には向いていないのではないかと不安になる時期もありました。そんな時、同じ目標をもった仲間や先生方が励ましてくださり、やり遂げることができたのだと思います。

教員を目指している皆さん、辛いことや大変なことがあると思いますが、大学生活で学べることを1つ1つ大切に、仲間とともに夢に向かって頑張ってください。



教員採用試験対策講座の様子



もかけがえのないものになります。一つ一つの経験を将来教壇に立つときに役立てられるように今を全力で楽しんでください。

2016年度
資格教育課程協議会
※は運営委員

会長

【教職課程】
※大西 勝也

副会長

【日本語教員養成課程】
※富谷 玲子

【教職課程】
古屋 喜美代

澤田 敏志

萩野 佳代子

横溝 亮一

加藤 美智子

関口 昌秀

鈴木 そよ子

望月 耕太

【社会教育課程】
※齊藤 ゆか

【学芸員課程】
田上 繁

安室 知

※小熊 誠

※廣田 律子

日野 晶也

金沢 謙一

【平塚教務課】
小川 繁弘

担当事務職員

【資格教育課程課】
八重樫典子

沖田 智大

里村 友実

佐武亜紀子

村上 雄太

箕村 雄也

【編集後記】
今年度は新学長はじめ資格教育課程も新しいメンバーを迎えてのスタートとなりました。大学も資格教育課程も、常に時と共に変わり続ける中で、学生たちのより良い成長に資することを変わらずに目指し続けて行きます。

荻野佳代子・箕村雄也